

七月二二日

九時地下へ。今日から禁煙を試みる。今、最期の一本を吸うかどうか思案中。今朝のミーティングでは八月九月の方針と十月以降来春までの枠組みをスタッフに伝える。

三〇年前の川合健二との遭遇、そして実験的な試み幻庵、開拓者の家。そこで途切れているかに思える試みを再び明快な形式で浮上させる。要するに、開放系技術イメージの初歩的なモノは昔、二〇代のガキの頃ネジ式とか気取って言っていた事だ。三〇年前は時代が本格的な経済成長期の只中へと入るゲートに差し掛かっていた。そんな時に時代とはかけ離れた事をやっても見事に浮き上がるだけだった。支持してくれた人間は皆、やはり時代から少し浮いて孤立しかねぬ人達であった。が、それがあつたからこそ、ここ迄細々とやってくる事も出来た。今、又、三〇年前の試みを再生させようと決断したのは、時代が余りにも空白状態になっているのを実感するからだ。しかし、時代状況ばかりが悪いのではない。明日の飯や金、そして今日の小さな成功のようなモノに眼をキョロつかせてきた自分も確実に居る。それはともかく、今は二〇代三〇代ではない。自分の内の核はハッキリしている。その核に手足をつけて柔軟にしてゆかねばならない。その手、足は場所と装飾だ。その集合体を社会に解りやすい形でプレゼンテーションする。

十四時院入試製図採点。忘れていてアタフタと駆けつける。気

が付けば煙草ブカブカ吸っている。全く、我ながらどうかしてる。何が禁煙だ。十八時稲田堤厚生館。増改築の件。現場を見てまわり、大方の方針を立てた。百合ヶ丘の寿司屋で近藤理事長と会食。厚生館の仕事を介して世田谷村市場の製品数を増やしたい。